

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 6 (R元. 5. 24発行) 文責 校長 福田雅也

行事を通して力を伸ばす

こんなことがありました

高学年でソーラン節の練習中、「上手にできている！」ということで〇〇さんが全員の前でお手本として踊りました。「押して、引いて」というかけ声と一緒に練習する振りです。5・6年生の上級生もいる前で〇〇さんが一人で踊り始めると、自然と4年生の他の子ども達も一緒にかけ声を言い始め、大きな声で〇〇さんを応援し助けていました。大勢の前で一人で踊るのは緊張したと思いますが、かけ声を一緒に言ってくれる友だちがいることで〇〇さんも心強かったことと思います。「友だちのために…」と思いやる気持ちから自然と声を出せる4年生のみんなを見ていて、とても誇らしく、嬉しい気持ちになりました。

これからも、このような素敵なお手本を見つけ、さらにのびていきたいと思います。

この文章は、先々週末に4年生担任の朝倉先生が発行した学級通信から抜粋したものです。私は、この文章を読んで、とても素敵だなあと感じました。朝倉先生は、3月までは大学生であり、初めて担任をもった先生です。にもかかわらず、しっかりと学級の子どもの良い面に目を向けることができ、それだけにとどまらず、それを保護者の方々に伝えることで、教育効果や子供たちの意欲をさらに高めようとしていることが伝わります。このような思考や姿勢は、教師としてとても大切なものだと思います。このようなことの繰り返しがあれば、子どもたちや保護者の方々は担任の先生のことをより信頼していくのだと思います。

そして、この場面や記事は、運動会を行事としてただ消化するのではなく、行事を通して子どもたちの力を伸ばすことにつながると感じました。場面は、運動会練習ですが、その内容は「友だちを思いやる心」と「それを行動に移すことができる力」についてです。本人が意識しているかどうかは確認していませんが、運動会の練習を通して、子どもたちの様々な力を伸ばそうとしている、と感じることができました。

もちろん、本校すべての職員が、このような気持ちで指導・支援していることは練習の様子から伝わってきます。

一昨日は予行練習でした。夕方には、職員全員で予行練習の反省会議を行いました。会議の中では、よりよい運動会にするために様々な改善点や修正点が検討されました。当日は、きっと素晴らしい運動会をお見せすることができると思います。最後に私が話す場面があったのですが、私から職員にお願いしたのは、競技の内容や運動会に限った話ではなく、「子どもたちができるはずのことや私たちが指導したことは、しっかりと徹底してやっていきましょう。」という内容でした。運動会は子どもたちの成長した姿を保護者や地域の方々にご覧いただく大切な行事ですが、同時に私たちにとっては、日頃の授業や日常的な指導と変わらない、子どもたちの力を伸ばすための場でもあるのです。ですから、「当日、失敗やうまくいかないことがあってもかまわない。そのことを利用して、また子供たちの力を伸ばせばいい。」とも話しました。このような意味で、運動会は学習の発表の場ではありませんが、日頃の指導の通過点ととらえることもできるのです。

これからの日々、様々な行事が予定されています。それら一つ一つの行事において、その行事の目標達成に向けて子どもたちを指導・支援すると同時に、日頃の授業や日常的な指導と変わらない視点で、子どもたちの力を少しずつ高めていけたらと考えています。